

サクラの開花が早い？  
秋が短くなった？  
これからいきものは、  
私たちのくらしは、  
どうなっていくんだろう？

事前申込

参加無料

## 気候変動適応オンラインセミナー 「生物が教える気候の変化」 ～市民モニタリングのすすめ～

2025年 2月2日（日）  
13:00-16:00



1月30日（木）  
〆切



定員100名

主催：気候変動適応東北広域協議会（事務局 環境省東北地方環境事務所）

[申込URL] <https://forms.gle/rAfQ5VCgMzW2NQAT7>

[お問合せ] 事務局（日本エヌ・ユー・エス株式会社）

tohoku-adaptation@janus.co.jp/03-4577-9703(山本)



## プログラム

- 13:00 オープニング
- 13:05 「市民参加による生物季節モニタリングの意義」  
日本自然保護協会 高川 晋一氏
- 13:55 「だれでもできる！ SNSをつかって生物季節モニタリング」  
事務局
- 14:35 「野生生物と人間、どちらが先に滅ぶのか～地球環境変動と生物多様性異変」  
国立環境研究所 五箇 公一氏
- 15:15 「なぜクマの出没が増えている？温暖化でますます増える！？」  
森林総合研究所東北支所 大西 尚樹氏
- 16:00 クロージング

## 登壇者プロフィール

### 日本自然保護協会

#### 高川 晋一

2006年より現職。市民を主体にした全国規模の自然環境モニタリング調査や、全国の自然観察指導員の活動支援・養成、里山の保護問題・保全活動の支援を担当してきた。現在は企業と自治体とをつなぐ「日本版ネイチャーポジティブアプローチ」事業を担当。専門は保全生態学、生物多様性評価、市民科学、環境教育。



### 国立環境研究所

#### 五箇 公一

専門は保全生態学、農薬科学、ダニ学。ヒアリなどの外来生物防除、ネオニコチノイド農薬などの農薬リスク管理および新型コロナウイルスを含む人獣共通感染症対策など、様々な生態リスクの研究を通じて、人間社会の持続性について模索している。政策にかかる委員会や大学講師を勤めるとともに、メディアを通じた環境科学の普及啓発にも注力。



### 森林総合研究所東北支所

#### 大西 尚樹

森林総合研究所東北支所動物生態遺伝チーム長。ツキノワグマなどの野生哺乳類の遺伝進化を研究する。研究のアウトリーチ活動にも積極的に取り組み、近年のクマの出没に関して多くのメディアで解説している。



主催：気候変動適応東北広域協議会（事務局 環境省東北地方環境事務所）

【個人情報の取り扱いについて】

お預かりした個人情報は、本セミナーの参加受付のために利用させていただきます。集計作業等のために他に預託することはございません。また、お預かりした個人情報は、日本エヌ・ユー・エス株式会社の「個人情報の取り扱いについて」(<https://www.janus.co.jp/about/policy/>)に従って適切に取り扱います。